

## ○ 供給調整機能の発揮

### 1 趣旨

四国森林管理局では、管内の国有林材の供給において、木材の需給バランスが乱れ木材価格が急変する時に、供給量の調整を行うこととしています。供給調整に当たっては、平成25年度に木材の生産・流通・加工等の関係者、学識経験者、府県の民有林行政の職員で組織した「四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を設置し、専門的な観点から供給調整の必要性、実施方法について検討することとしています。

### 2 平成27年度の取組

平成26年度は、「四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を3回実施しました。

8月の台風被害等による一時的な出材不足が生じたものの、いずれの委員会でも「現時点では国有林材の供給調整の必要はない」との報告を受け、計画的な事業実行に努めたところです。

平成27年度においても、引き続き、同委員会の開催を通じて、地域の木材需給の動向を踏まえつつ、原木の供給量、供給時期、供給場所等を適切に判断し、供給調整機能の発揮に努めることとしています。

担当：資源活用課 TEL：088-821-2170
------------------------------

低コスト林業

1 趣旨

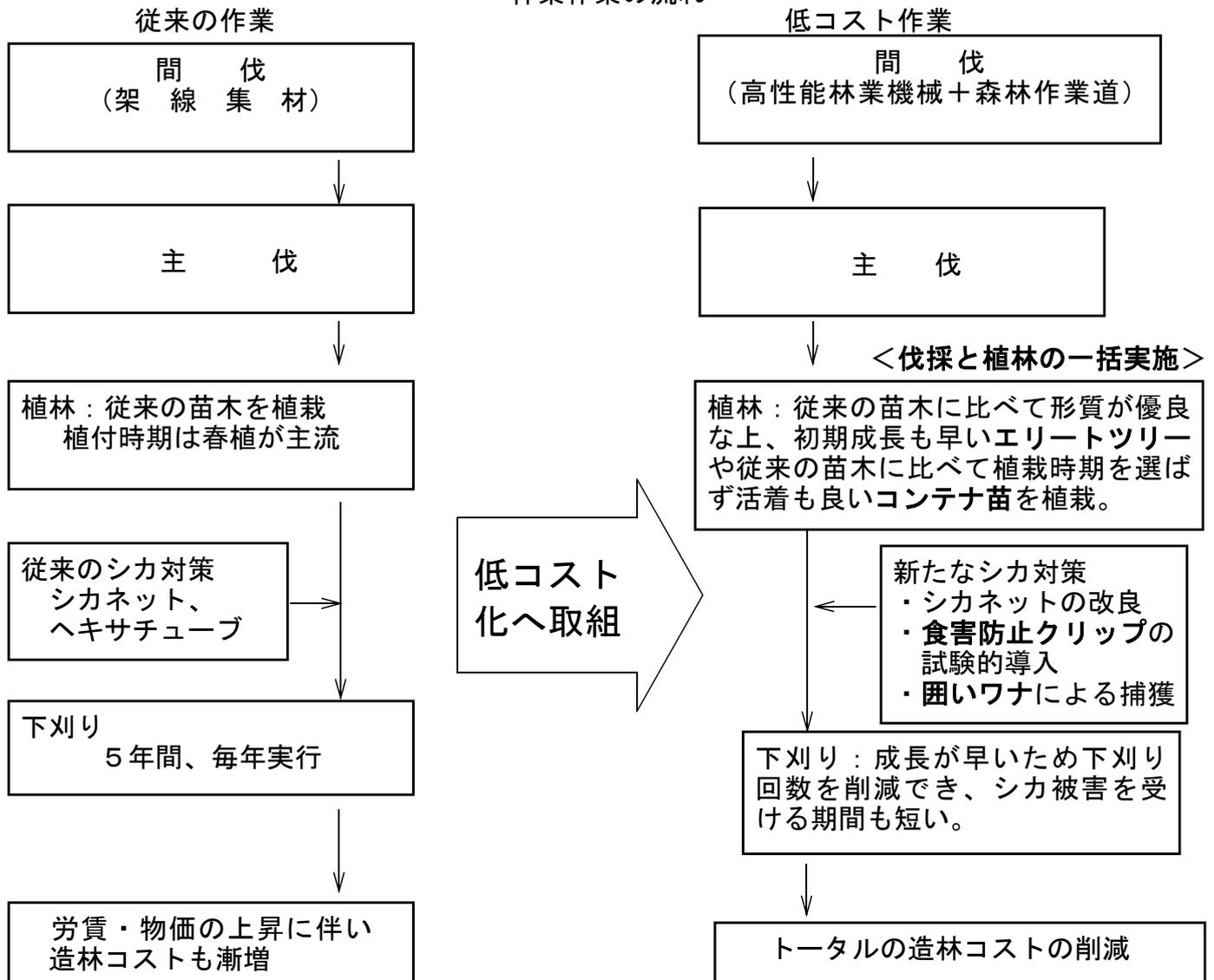
我が国においては、人工林が本格的な利用期を迎え、その豊富な森林資源を循環利用するとともに、森林整備を通じた森林吸収源対策の実施が重要となっています。

そのため、林野庁では、人工林の間伐を引き続き促進するとともに、伐期に達した人工林については主伐し、その跡地を確実に造林することにより、森林資源の若返りに取り組み、資源の有効活用と温暖化ガスを吸収する能力の確保に努めることとしています。しかしながら、その際の各種作業コストを縮減することが大きな課題となっており、コスト低減に向けた取組を推進することとしています。

四国森林管理局では、間伐の生産性を高めコストを縮減するため高性能林業機械と森林作業道を組み合わせた作業システムを構築・普及していくこととしています。

また、森林の若返りを促進するため、コンテナ苗やエリートツリーなどを民有林に先駆けて植栽し、民有林の手本となるような効率的で低コストな事業実施及び技術開発に率先して取り組んでいきます。

林業作業の流れ



○低コストで効率的な木材生産に向けた取組

2 平成27年度の取組

四国森林管理局においては、路網と林業機械を組み合わせた作業システムを積極的に導入しており、26年度の事業のほとんどを同システムで実施しています。

本年度は、さらに低コストで高効率な間伐の推進に向けて、次に取り組めます。

- (1) 路網と林業機械を組み合わせた間伐を積極的に行います。
- (2) 林業事業者等の創意と工夫を取り込み、より良質かつ低コストな間伐を実現しようとする民間事業者の競争入札による、3年間にわたる複数年契約の間伐を拡大します。  
さらに、新たに主伐（誘導伐）と植付を一括発注する一貫作業システムの導入に向けて、箇所選定等の検討作業を進めます。
- (3) 繰り返しの使用に耐える丈夫で簡易な森林作業道の設計・作設技術の向上及び、急峻地等における架線系作業システム（タワーヤーダ等）の導入等についての現地検討会を開催します。
- (4) これらを通じて低コストで高効率な作業システムの民有林を含めた普及・定着を図ります。

【森林作業道開設による低コストで高効率な作業システムの例】



【民間競争入札による複数年契約箇所】

年度	署名	所在地	国有林名	面積	予定数量
25～27	四万十森林管理署	幡多郡三原村	ゆずりはたにやま 譲葉谷山	2 3 8 ha	12, 500m <sup>3</sup>
26～28	四万十森林管理署	幡多郡三原村	奥谷山	1 1 3 ha	7, 000m <sup>3</sup>
	安芸森林管理署	安芸郡北川村	つつじおやま 躑躅尾山	1 0 6 ha	8, 900m <sup>3</sup>
27～29(予定)	安芸森林管理署	安芸郡北川村	西谷山	9 5 ha	約8, 200m <sup>3</sup>

担当：資源活用課  
TEL：088-821-2170

## ○コンテナ苗の導入など造林の低コスト化に向けた取組

### 2 平成27年度取組

四国森林管理局では、コンテナ苗については平成23年度に試験的に800本を植栽したのを皮切りに、平成25年度に5,000本、平成26年度に13,300本を植栽しました。また、スギエリートツリーを四国で初めて平成25年度末に1,900本（香美市と北川村の国有林）、さらに平成26年度末に1,620本（四万十町と馬路村の国有林）を植栽しました。

平成27年度は管内国有林で約180ha（スギ、ヒノキ約40万本）の植栽を予定しており、この中でコンテナ苗やエリートツリーの供給可能な量を見極めつつ、これらを引き続き積極的に植栽していくとともに、成長量の調査を行いながら、民有林への普及に努めます。



専用ハウスの中で育てられたコンテナ苗



植栽されたエリートツリー（高知県香美市）



林業関係者を対象とした現地検討会（高知県仁淀川町）

※コンテナ苗とは、

プラスチック製の容器を使って育てられた苗木で、土付きであることから、植栽時期を選ばず活着も良く、植栽も簡単な利点。

※エリートツリーとは、

品種改良により作られた、成長、形質が特に優れた樹木（特に成長・形質が優良なもの同士をかけ合わせた精英樹から、さらに優れた個体を選抜した第二世代以降の精英樹）

担当：森林整備課

森林技術・支援センター

TEL：088-821-2200（森林整備課）

088-821-2250（森林技術・支援センター）

### 国有林のフィールドを活用した人材育成

#### 1 趣旨

我が国では、環境が変化する中で、成熟しつつある森林資源を科学的な知見に基づき、関係者間での合意形成を図りながら、持続的に経営していくことが必要になっています。

このため、林野庁では、地域の森林経営についての構想の作成、合意形成、構想の実現について市町村を支援し、その活動を指導等できる森林総合監理士（フォレスター）を育成しています。

四国森林管理局においても、フォレスターの候補となる若手技術者の人材育成に貢献するため、研修場所となる国有林のフィールドの提供、講師派遣等を行っています。

また、林業架線設備等先進的作業システム等についての現地検討会等を通じて、喫緊の課題となっている林業事業体育成にも取り組むこととしています。

#### 2 平成27年度の取組

県や国の職員等を対象に、平成23年度から3年間准フォレスター研修を、平成26年度には林業技術者育成研修（ブロック研修、実践研修）を実施しました。

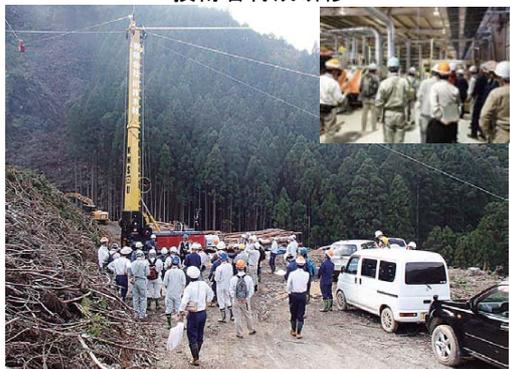
平成27年度においても、引き続き、林業技術者育成研修を実施します。

また、新たに、四国森林管理局が核となり「四国フォレスター機動隊（協議会）」を設置し、管内のフォレスター、准フォレスター等との円滑な情報共有、連携強化を図り、市町村森林整備計画の作成や森林経営計画の認定などの民有林施策を支援していきます。

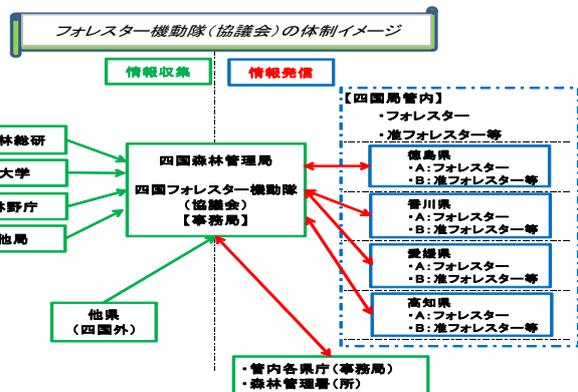
さらに、林業事業体の育成については、引き続き林業架線設備等の現地検討会等を通じて、安全対策を含めた技術の向上に取り組みます。



技術者育成研修



実践研修



林業架線設備等現地検討会

担当：技術普及課	TEL：088-821-2121
資源活用課	088-821-2170

## 木の文化を支える林産物の安定供給に向けた森林づくり

### 1 趣旨

日本各地には「木の文化」の象徴とも言うべき木造文化財等の伝統的建造物、伝統工芸など次世代に引き継ぐべきものが多くあり、こうした伝統文化等の継承に貢献する森林づくり活動への関心が高まってきています。

このような中、四国森林管理局では「木の文化」の象徴でもある伝統的木造建造物を将来にわたって維持・継承していくため、必要な資材を安定的に供給していけるよう、森林づくり活動を推進することとしています。

### 2 平成27年度の取組

#### (1) 「祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森」での森林づくり活動

年間約30万人の観光客が訪れる「祖谷のかずら橋」(国指定重要有形民俗文化財)と東祖谷の奥祖谷二重かずら橋(男橋、女橋)は、3～5年毎に架け替えられており、平成26年度は「祖谷のかずら橋」の架け替え資材のシラクチカズラ約6トンを提供しました。平成27年度は、奥祖谷二重かずら橋の女橋の架け替えが予定されています。

しかしながら、シラクチカズラは年々確保が難しくなっているため、高知県の国有林からの供給も検討するとともに、近在の国有林から安定的に供給できるように、祖谷の実行委員会と徳島森林管理署との間で結ばれた協定を基に、森林整備等の取組を行います。



架け替え後の祖谷のかずら橋の渡り初め



地元中学生によるシラクチカズラの挿し木



資材確保の森での森林整備(シカ除けネット補修)

#### (2) 「伊予之二名 島古事の森」での森林づくり活動

松山城や道後温泉本館などの伝統的木造建造物の修理、修復に必要な大径長尺材を将来的に確保するため、一般公募による森林づくり活動(森林整備等)を実施します。



古事の森での森林整備(保護チューブ外し)



古事の森での森林整備(倒木起こし)

担当：技術普及課  
TEL：088-821-2121

森林・林業への理解に向けた取組  
～各種ツアーの実施、森林環境教育等～

1 趣旨

四国森林管理局では、四国4県とともに平成16年度に発表した「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき、国民の皆様への情報発信、森林環境教育等を通じて国民の皆様がより深く森林・林業を理解していただくよう努めています。

2 平成27年度の取組

(1) 森林ふれあいツアーの実施

国民の皆様が森林に親しみ、自然と触れ合うことにより、森林への理解をより深めていただけるよう、「魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産の歴史を訪ねるツアー」や「保護林観察ツアー」を秋季に実施します。

(2) 「四国山の日賞」の募集及び表彰の実施

四国の森づくりに向け、森林整備、木材利用、森林環境教育等に積極的に取り組む団体、企業等を対象とした「四国山の日賞」を募集し、選考された団体を表彰します。

(3) 森林環境教育の実施

国有林のフィールドを活用した森林教室や木工教室等の森林環境教育を、学校や地域関係者等と連携して実施します。

また、教職員を対象とした森林環境教育の研修会も実施します。



森林鉄道遺産(馬路村馬路)



(馬路村魚梁瀬千本山国有林)



保護林観察ツアー  
(土佐清水市佐田山国有林)



四国山の日賞表彰



国有林のフィールドを活用した森林教室



教職員への森林環境教育研修会

担当：技術普及課

四万十川森林ふれあい推進センター

TEL : 088-821-2121

0880-31-6030

平成27年度四国森林管理局主要事業量

区分	事業名	単位	26年度(A)	27年度(B)	対比(B/A)
森林整備	植付	h a	98	140	143%
	下刈	h a	379	355	94%
	除伐	h a	473	141	30%
	保育間伐	h a	3,399	3,218	95%
路網整備	林道新設	k m	8	5	59%
	林道修繕	k m	216	200	93%
木材供給	立木販売	千m <sup>3</sup>	—	62	
	製品販売	千m <sup>3</sup>	170	171	101%
山地災害の 対応	治山事業	億円	(49) 30	(48) 30	(98%) 100%

(注) 治山事業は当初予算額、上段( )は平成26年度からの繰越を含めた予算額